◇　宮　嶋　清　伸　◇

○議長（村松　　積）　次に、６番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

○６番（宮嶋　清伸）　６番、宮嶋清伸です。

今回私は、下條村の教育施策と地球温暖化についての取り組みについて、村長の考えをお聞きします。

まず、最初に下條村の教育施策について２つ質問します。

現在、全国の教育現場では、小中一貫の９年間の教育を検討し、子供たち一人一人の学力の充実、向上を図るとともに、豊かな人間性や社会性をはぐくみ、子供たちが自ら将来を切り開く力を身に付けることを学校と家庭、地域が連携を図り推進していく自治体が増えております。

また、専門分野を学習するために、中高一貫教育を取り入れているところもあります。

私は以前から、小学生でも中学生の勉強ができ、中学生でも小学生の基礎が分からなければ、習える仕組みが必要だと考えておりますが、村長のお考えをお聞かせ願います。

続きまして、特別支援学級について質問します。

現在、全国的にＬＤ、学習障害、ＡＤＨＤ、注意欠陥多動性障害の疑いのあるお子さんが増加する傾向にある中、下條村として特別支援学級のあり方、または広域連合として専門家による集団教育指導についてのお考えをお聞かせ願います。

続いて、地球温暖化対策として注目されている太陽光発電についてお聞きします。

オバマ大統領は、就任以来、グリーンニューディール政策を掲げ、特にクリーンエネルギーに力を入れておりますが、太陽光発電は日進月歩で開発が進み、耐用年数も伸びつつあり、価格も年々安くはなっておりますが、まだ高いものです。

現状では、導入費用が回収されるまでに１５年から４０年、耐用年数は２０年から３０年以上だと言われております。また、余剰電気を蓄電する技術が遅れており、蓄電池を購入しても高価で寿命が短いため、余剰電気は電力会社に売却する方法が主流となっておりますが、この太陽光発電の有効性について、村長のお考えをお聞きします。

最後になりますが、今後村内の公共施設や太陽光発電の導入のお考えがあるか、また村内の個人や企業が太陽光発電を導入した場合の国の補助金に上乗せした補助の考えがあるかお聞きします。

この最後の質問は、今回の一般会計の補正で４００万円上程されておりますが、その件についてもお聞きしたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○議長（村松　　積）　伊藤村長、答弁願います。

○村長（伊藤　喜平）　宮嶋議員の質問にお答えいたします。

第１問は、教育に関する問題でございました。私は常に申しておりますように、この職に皆さんの協力をいただいて立たせていただいて長いわけでございますけれども、どう考えても村づくりの基本は何かというと、人づくりであるということでございます。人づくりといっても非常に範囲が広いわけでございまして、その中で人間教育というのが大事かな。教育といっても非常に幅が広くて、幼児教育、学校教育、社会教育、生涯教育といろいろあるわけでございますけれども、その中で人間形成に一番影響を与えるのは何かというとやはり義務教育であろうと思います。その教育分野についてご提案がございましたので、お答えいたしたいと思います。

小中一貫教育ということでございますけれども、このことにつきましては、小学校から中学に進んだ途端に、勉強の内容や生活の変化になじめず、学校に適応できなくなる「中１ギャップ」解消のため、独自のカリキュラムで小中一貫教育に取り組む学校が全国的に増加しておりますと、こういうことでございます。

学習指導要領を離れて一貫教育の授業を組む制度の「特例校」の指定を受けている学校は昨年３月時点で全国７０カ所あり、長野県内では現在２校で検討中でございます。

一貫した教育を行うことで、初等教育から中等教育の転換を柔軟に行うことができ、「中１ギャップ」による不登校者を防ぐという利点もある反面、カリキュラムの見直し、一貫教育を行っていない学校から転校生などを迎える場合の対応等において、いろいろ問題があろうかと思います。

そのために下條村では、窮余の策として入学前の現在入学前の２月に６年生が、要するに小学校から中学入学する前の６年生に対しては英語、数学の授業を２月から受けさせており、中学の雰囲気になじむようにしております。また、ＡＥＴこれを週１回小学校に行き英語の授業を行っているなど小中連携を進めております。

今後も小学校・中学校の先生が強化の連携を行っていくことが必要なことと考えており

ます。小中連携も視野に入れて、これからも真っ正面から取り組んでまいりたいと思います。

次に、特別支援学級について。

これは下條村としても相当力を入れておるつもりでございます。

全国にはＬＤ、要するに学習障害者、それからＡＤＨＤ注意散漫、要するに多動性障害とうまいことをつけたもんでございますけれども、要するに落ち着きのなく教室を飛び回るお子さんの疑いのある子供さんたちは増加傾向にあります。残念でございますけれども。

下條村でも疑いのある子供が増加しております。これは子供さんが増えたということにも起因するわけでございまして、数は増えたんですけれども、パーセントはどうかというとそこまでちょっとデータも検討していなかったわけでございますけれども。

疑いのあるお子さんについては、乳幼児の段階で保護者の承諾を得て、飯田教育センターひまわりに依頼し、臨床心理士などに相談し、保育園でも飯田療育センターひまわりの相談や医療機関での検査をしていただいております。特に年長園児につきましては、小学校、教育委員会との打ち合わせ会議、小学校・中学校での特別支援コーディネーターの先生の指導を行っております。

現在小学校には、特別支援学級「花の木」学級に６名の児童がおり、先生が１名専属についておるところへ、今年は村単独で補助員を１名つけ、２名が６名のお子さんに対して一生懸命対応しておるところでございます。中学校では、１名の生徒が特別支援学級におり、正副の担任主任が受け持っておるところでございます。

保育園から小学校へ就学、小学校から中学への進学段階には、飯田市教育委員会の心身障害児適正就学指導委員会へ委託して判断を行ってもらっております。

今後、福祉課、保育園・小学校・中学校・教育委員会が綿密に連携を持ちながら対応するとともに、南信教育事務所の特別支援教育推進委員の先生とも年間を通じて、複数相談を行いながら子供たちの自立を支援していきたいと思っておるというところでございまして、この問題についてはまたこれからも一生懸命やっておるわけでございます。

それで小中一貫校でございますけれども、これは今言うように「中１ギャップ」というのが出るんですけれど、私はいい面では１つは、心機一転ということがございます。小学校まで何となく過ごしておったなと。いよいよ今度は変わった雰囲気の中で、「よし心機

一転やるぞ」というような感動を覚えたのが私の人生にはあります。だらだらというか、６年から９年間同じ雰囲気の中におるということと同時に、高校行ってもそうでございますけれども、中学の６年３年、高校行くとまるで雰囲気が違うわけでございます。これはうかうかしてはおれないぞというようないい面もあるということもあるということは、私だけでなく皆さんにもおありであろうかと思います。

もう１つでございますけれども、学校のシステム。これ特に誤解されると困るんですけれども、下條学校では校長先生を中心に非常にうまくやっておってくれます。若干の問題はあるにしても。これは当然のことでございます。

私は、このごろ高知にちょっと大会があって行く都合ありまして、岡山まで新幹線、それからなんと岡山から高知まで飛行機がなくて列車で行きました。３時間かかりました。特急で３時間かかるということでございまして、まだ電化されていないということで、ディーゼルで「グー」といってものすごいうなり声上げながらいったわけでございますけれども、その中に特急が止まる駅として「善通寺駅」というのがありました。この時に懐かしいなということは、前２期目以前の皆さんは、善通寺へ教育のことについて研修。本当の意味での研修に行かれたことが記憶に新しいと思います。

と申しますのは、私は善通寺の市長、私ある大会でパネラーが大阪大学の副学長の本間正明さん、それから東京日野市の市長がこれ都市計画やりました。そして善通寺市が「教育は情熱だ」というテーマで善通寺市がやり、そして私が「硬直化したこの公的組織」それから「財政を中心とした行政改革」ということで２会場くらいでやった覚えがあるわけでございまして、彼とは相当気があったわけでございまして、当日は私が行くということを伏せてありました。そうしたらかの市長はどっか「四国の大会があるでどうしても行かんならん、おれん」と言っておりましたけれども、私が行ったら「いやいやそんなわけにはいかん」といって２時間くらい対応してくれました。

誤解してもらっては困るんですけれども、善通寺市のことを言いますと、リアルでございます。善通寺市には、公的中学校と私立中学校とあると。どうしても公が負けてしまうということでございます。これはいろいろあるんですけれども、私が言うんでなしに市長が言うのは、先生の気構えが違うと。私立というのは生徒の評判が悪かったり効果が上がらなんだら、先生はだんだんだんだん端に追いやれてしまうと。公立は幸か不幸か、身分

安泰。これは善通寺市の市長が言ったんですから、これは誤解があっちゃ困る。念を押して言っておかんと、変なふうに井戸端会議で広がってしまっては困るわけでございますけれども。

そういうことで、何をしておるかというと、放課後になったら公文の講師を中学校に呼び込んできて、そして希望者を募って公立の中学校に公文の教師が来て、徹底して指導する。そうしないと公立が危なくなってしまうというようなお話。

それからもう県教委に対しても徹底的に抗戦で、いい校長が来たら転勤命令が出ても絶対そこに置くんだと。「定年になるまでは絶対私ども離しません」というようなお話もして、まさに教育は情熱。情熱があれば相当のこと、６割くらいまでは生徒の感動を呼び、そしてやる気を起こすと。こういう理論でございます。これも一理あろうかと思います。

私たちの育った時分は、頭パチンとやられたり竹のむちでパチンとやられたんですけれども、あれは抵抗もなくて「そういうもんだな、先生というのは偉いもんだな」ということで過ごした学生時代でございます。今、そんなことしたら大変でございます。」そうしたご意見も聞いてきて、５人の方は覚えておられると思います。今も時々文通はしておりますけれども、文通というか電話で時々話すことがあるんですけれども、そんなことを思い出したことを記憶がよみがえったということと、基本的には地域づくり村づくりというのは学校教育のとき、義務教育とはよく名をつけたもんでございますけれども、義務教育の９年間でその子の方針がある程度変わってくる。それに対しては、先生もみんな一生懸命やっておるけれど、今以上に情熱を傾けてやっていただきたいということと同時に、あまりにも父兄も過剰反応しすぎるということもあろうかと思います。そんなことで私は、父兄の会合だとかいろいろにはできるだけ辛口を言っておるんですけれども、ぜひまた皆さんもそんなことで関心を持つ。村づくりの基本になることでございますので、ぜひ関心を持っていただきたいと思うと同時に、いろんなまたご意見をお聞かせいただければ幸いと思っています。

教育の話になると情熱。

地球温暖化でございますけれども、言われるとおりでございます。

これからは本当に太陽エネルギーを使わないという手があるわけでございますけれども、あれもいい、コストが安いという問題でなしに、今バッテリーの問題もありました。

あれは希少金属も使います。そしてまたなかなか消耗も激しいし、維持費も大変でございます。今はできたものは電力会社に売り、そしてその差額でやっておるわけでございます。

村でも、今回の予算を含めまして、これから公共。今までもやっておりますけれども、これからも積極的に３，０００万円くらいかけてやるということと、民間では今民間にも今コスト１キロワット７０万円マックスで７０万円くらいかかるそうでございます。一般家庭では、大体４キロあればいいということで、２８０万円くらいかかるということでございます。これは国としては７万円出しておりまして、国が７万円で上限でございます。村も１キロワット５万円出しておるということで、１２万円でございます。仮に４キロワットのを入れたとするならば、２８０万円で村が２０万円上限、それから国が２８万円上限ということで、４８万円、約２割弱の補助金があるということでございますけれども、この分野はまさに日進月歩でございます。価格は安くなり、それから電力転換の効能が非常に高くなってくる。そしてスタミナもあるというのが次から次へ出てくるわけでございまして、そういう意味では非常に有能な分野かなということでございます。

村としても、第１段階として２０戸、２０万円で４００万円今回補正に計上してあるわけでございますので、前向きなご審議いただくことをお願いし、答弁といたします。

○議長（村松　　積）　６番、宮嶋清伸君、再質問ありましたら。

○６番（宮嶋　清伸）　２つ再質問したいと思います。

まず、１つは、特別支援学級の関係なんですけれど、今子供たちはひまわり学園もありますし、飯田の養護学校というのでやはり遠くへ行っているというのがありまして、聞くところによると天龍村の平井、売木の方から５０分もかけて行っているような人もいるということで、広域連合として阿南地区にそのようなものを今後考えているかどうかということと、あと３月の時の答弁で保育所にも学習ソフトの導入で２つくらいパソコンを買って導入するよというような話があったんですけれど、その現状はどのようになっているか、その２点お聞きしたいと思います。

○議長（村松　　積）　伊藤村長。

○村長（伊藤　喜平）　阿南地域といわずに南部地域というふうに名を改めていただきたいと思います。昔は、阿南地域と言ったんですけれども、今南部広域でございます。

これは今話題に上がっております。今度もう大規模改修になった阿南学園、大規模改修

の時、それからこんな時期にまたひとつなんとかしたいなということでございますので、どういうふうになるか分からんのですけれども、喫緊の課題として今テーマに上がっておるということでございます。

それからパソコンは、課長の方からお話しします。

○議長（村松　　積）　宮島福祉課長。

○福祉課長（宮島　栄一）　それでは今のご質問にお答えいたしますが、おかげさまに２台設置を今してあります。

このパソコンにつきましては、新しいということではなくて、村の方で事務として使っていたその中古品でございますが、それを今２台おかげさまに保育園の方に入れてあります。

以上であります。

○議長（村松　　積）　６番、宮嶋清伸君。

○６番(宮嶋　清伸)　導入されて上の方はどのようにされているのかお聞きしたいと思います。

○議長（村松　　積）　宮島福祉課長。

○福祉課長（宮島　栄一）　人数の方が１６１名と、これは１歳児から６歳児までということでございますが、やはりソフトというか、パソコンの扱いでございますので、ちっちゃい子からというわけにはまいりませんので、今のところは一番の年長さん、４８人くらいいるわけなんですが、その皆さんの希望の中で進めるということなんですが、何しろ４８人に対して２台ということでありますので、非常にその取り扱いにちょっといろいろ取り合いとかいろいろ問題もありますので、今職員の中で使い方について検討をしながら進めたいということで思っております。